



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

パラオ共和国

— 平成 30 (2018) 年度 地域巡回機能回復等推進事業 —
(終了時評価—2019 年 4 月)

事業概要

国名	パラオ共和国
プロジェクト名	2018 年度 FDAPIN VI プロジェクト
実施期間	2018 年 6 月 22 日～2019 年 3 月 31 日
相手国政府覚書署名省庁名及び実施機関	覚書署名省庁：天然資源環境観光省 (Ministry of Natural Resources, Environment & Tourism) 実施機関：海洋資源局 (BMR : Bureau of Marine Resources)

プロジェクト実施の経緯と背景

パラオ共和国 (以下、「パラオ」という。) 海洋資源局 (Bureau of Marine Resources : 以下、「BMR」という。) が策定した国家開発計画 (National Master Development Plan 2020) には、国民への蛋白資源の供給増大のため、以下の 8 項目が目標として設定されている。

- ① 地元漁業者の雇用と収入機会の創出
- ② 長期的に持続可能な総合的水産資源管理の実現
- ③ カツオ・マグロ漁業資源を利用した漁業へのパラオ漁業者の参加促進
- ④ 増養殖及び未利用水産資源の開発とその輸出促進
- ⑤ 水産物の漁獲、取扱い、保管及び流通の効率向上
- ⑥ 既存水産関連施設の利用改善と戦略的拠点における施設整備
- ⑦ 輸出向け水産物の監視体制の確立と輸出産業の純利益の増加



⑧水産物の国内需要への充足

このような基本政策に基づき、同国政府は各種の漁業振興策を実施しているが、同国の水産関連施設は、故障や老朽化等のため本来の機能を発揮することができず、漁業活動に支障を来している。

このため、パラオ政府は、公益財団法人海外漁業協力財団（以下、「財団」という。）に対し、関連施設の修理・修復及び現地技術者への技術指導についての要請を行った。

財団は、我が国とパラオとの漁業関係の重要性に鑑み、同国政府の漁業振興政策を支援するために、本プロジェクトを実施した。

目標・成果・活動内容等

上位目標	修理・修復対象施設周辺地域の漁業生産が増加し、小規模漁業が発展する。
プロジェクト目標	水産関連施設が修理・修復され、当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。
成果	<p>①BMR ワークショップの修理・修復及び技術指導 BMR ワークショップの修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。</p> <p>②BMR 製氷施設の修理・修復及び技術指導 BMR 製氷施設（全て稼働中）の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。</p>
活動	<p>①BMR ワークショップの機能回復及び技術指導 ワークショップ用トラックを交換した。ワークショップ内の予備品等の仕分けリストを作成した。また、カウンターパートに対して関連技術指導を行った。</p> <p>②BMR 製氷施設の修理・修復及び技術指導 カヤンゲル州、アルコロン州、アルモノグイ州、アイライ州、ペリリュー州及びアンガウル州の製氷機の点検、保守修理作業を行った。特にカヤンゲル州の製氷機においては、劣化が激しかった R22 冷媒使用の製氷機を新冷媒使用の製氷機に交換した。また、カウンターパートに対して関連技術指導を行った。</p>
投入	<p>財団側</p> <p>1) 専門家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画 巡回指導：チームリーダー/漁船機関専門家 1名 冷凍機器専門家 1名 2018年11月初旬～12月中旬（約50日） ・ 実績 巡回指導：チームリーダー/漁船機関専門家 1名 2018年11月1日～2019年1月9日（70日） 冷凍機器専門家 1名 2018年11月13日～12月15日（33日） ・ 延日数 計画：100人・日 実績：103人・日（計画対比：103%）

	<p>2)主な資機材 製氷機ユニット1セット、ワークショップ用トラック</p> <p>3)事業費 予算額 16,074 千円 実績額 16,074 千円 (予算対比: 100%)</p> <p>相手国側</p> <p>1)主なカウンターパート</p> <p>①BMR ワークショップの修理・修復及び技術指導 BMR 職員 1名 2018年11月7日～9日、同12月7日、同12月11日～2019年1月7日</p> <p>②BMR 製氷施設の修理・修復及び技術指導 BMR 職員 1名 2018年11月13日～12月14日</p> <p>2)プロジェクト関連予算、土地、施設等 BMR における執務室及び電気・水道・電話 (国内回線) の無償提供</p>
--	---

評価事項

◆ 妥当性

1. 対象国政府の水産振興政策との整合性

本プロジェクトは、BMR が策定した国家開発計画において、国民への蛋白資源の供給増大のために設定された8項目の目標に合致した事業内容であり、妥当であると判断される。

2. 協力ニーズ (対象国、対象地域) との整合性

パラオ政府から、水産関連施設の修理・修復及び現地技術者への技術移転並びに関連組織への指導・助言を要請されており、事前調査において BMR ワークショップの修理・修復及び技術指導並びに BMR 製氷施設の修理・修復及び技術指導に対する協力ニーズが高いことが確認されている。

3. 環境に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトでは、直接環境に影響を与える活動はなく、冷媒、廃棄部品等の扱いについては、適切な回収装置を用いるなど、常に環境保全に配慮している。

4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトは、水産関連施設の機能回復を図るものであり、製氷活動がより活性化することで間接的に現地零細漁業者の漁業活動が活発になることが想定される。しかし、

氷を用いる漁業者は底釣り、曳縄、魚突き漁業等の零細漁業者が主であり、漁獲圧力は限定的でさほど高くない。また、パラオ政府は、資源保護のため様々な漁業規制を法制化しており、製氷機の機能回復に伴う資源への影響は極めて限定的であるといえる。

5. その他（プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められたとおりに実行されたか等）

特になし。

◆ 効率性

1. 事業費及び実施期間

事業費は予算額内に収まり、実施期間もほぼ計画通りであった。（予算及び計画対比：事業費 100%、実施期間 103%）

2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を発揮していたか

プロジェクト活動はすべて完了し、それぞれ期待された機能及び能力を発揮した。

3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

移転技術は、専門家が事前調査においてカウンターパートの技術水準を見極めた上で指導内容を検討しており、実施に当たっては適切な指導が行われたことから、カウンターパートの水準に適合していた。

4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

特になし。

5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

BMR カウンターパート（初級メカニック）は、本年度に財団が実施した製氷機講習会に参加し、技術水準が向上したことからプロジェクトの効率性が一層高まった。

◆ 有効性

1. プロジェクト目標の達成度

① プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：水産関連施設の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術の向上

計画どおり水産関連施設の機能が回復し、また、必要な技術移転が行われ、技術指導によるカウンターパートの基礎知識及び技術レベルは益々向上したことからプロジェク

トの目標は達成された。

② その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

特になし。

2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

① BMR ワークショップの機能回復及び技術指導

期待された成果：BMR ワークショップの修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する

ピックアップトラックの供与を行い、BMR カウンターパートに車両の管理に関する技術指導を行うとともに、ピックアップトラックを用いた BMR 多目的船の上下架、各水産施設の点検のための機材の運搬に係る技術指導を行ったことにより、技術レベルが向上し、施設の稼働が円滑になった。

② BMR 製氷施設の修理・修復及び技術指導

期待された成果：BMR 製氷施設(全て稼働中)の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する

施設の修理・修復を行い、BMR のカウンターパートに修理・修復に関する技術指導を行ったことにより、技術レベルが向上し、施設の稼働が円滑になった。

◆ インパクト

1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

本プロジェクトの実施により、ワークショップと製氷機の修理・修復及び維持・管理に関する BMR のカウンターパートの技術が向上したことから、プロジェクト目標は達成された。今後、ワークショップ及び製氷施設が順調に稼働すれば、上位目標である修理・修復対象施設周辺地域の漁業生産の増加、小規模漁業の発展に一定の効果を及ぼすと考えられる。

2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

本プロジェクトの実施により、ワークショップと各製氷施設が安定的に稼働し、周辺漁民に氷が円滑に供給されるようになった。今後、製氷施設が順調に稼働すれば、漁獲物の品質向上により魚価が上がり漁民の所得が向上することから、対象地域の経済に対する直接的な効果の発現が見込まれる。

また、氷は地域住民にも供給されることから、民生向上に寄与し、対象地域の社会・経済に対する直接的な効果の発現が見込まれる。

3. その他（ターゲットグループに対するインパクトや、プロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等）

特になし。

◆ 持続性

1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

カウンターパートは BMR の職員で、プロジェクト終了後も引き続き本施設の管理を担当する予定である。

供与された資機材は製氷機等であり、プロジェクトを通じてカウンターパートに適切に技術移転されたことから、プロジェクト終了後も有効に活用される。

2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

本プロジェクトにより施設の機能が強化され、継続的な活動を可能にする人的・物的環境が整備された。また、BMR は国家開発計画により、既存の BMR 製氷施設の活用を推進しており、当該センターの継続的運営が同国の沿岸漁業振興に不可欠であることを認識している。従って、本プロジェクト終了後も、この効果は持続的に発揮される見込みである。

3. その他（持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上